



加藤 元の



と暮らして
みませんか

24

犬の耳の穴には特別な粘膜があり、分泌物を出します。健康な犬でも、手入れをしないで放っておくと、耳あかがたまり、耳が臭くなり、病気が起こりやすくなります。

なおいの激しい犬は、耳の病気がある証拠です。耳の穴の中で、黒褐色の粘性の分泌物が腐っていたり、炎症のためにウミを出していたりすることがあります。また耳ダニも、母犬や他の犬からもらったりする比較的多い病気の一つです。

特に、たれ耳の犬は耳の中が乾燥しにくいため、細菌が繁殖しやすく、炎症も起こしやすいのです。

耳の病気

「清潔」「乾燥」心がけ予防

犬が耳を気にするときは、必ず何らかの耳の病気があると考えてやらなければなりません。

耳の病気で一番多いのは、外耳炎です。特にたれ耳の不潔、耳ダニ、栄養不良、ホルモンの病気などによって黴菌や真菌がはびこり、耳道に炎症が起こるのです。耳を触ると嫌がる、耳が臭い、耳だれが出る、頻繁に耳をかく、頭を振る、首を傾げるなどがあれば、それだけで、何か耳に病気が起こっていると考えてやる必要があります。

特に外耳炎をひどくすると、鼓膜を破って中耳にまで炎症が広がり、さらに病気が進むと、内耳炎、まれなことですが、脳炎や敗血症という恐ろしいことにもなりかねません。

どんな病気でも軽いうちに見つけてやれば、犬の苦しみも少ないうえに、治療費もそれだけ少なくて済むことになります。少しでもおかしければ、早速ホームドクターや動物病院で見てもらいましょう。

普段から耳をよく見て、中を清潔にし、入浴させた後は必ず綿棒できれいにふき取り、乾燥させましょう。さらに、耳の病気の予防として、病院で定期的に耳の中の毛をきれいに抜いてもらい、必要な手当てをしてもらいましょう。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長)